

福祉のまちづくり 作文・ポスター



ポスター中学生の部

最優秀賞



横芝中学校 三年
伊藤 綾音

～だれもがありのままに、その人らしく

地域で暮らすことができる福祉のまちをめざして～

福祉のまちづくり 作文・ポスター



最優秀作品と優秀作品紹介

「ふれあいと支えあいの精神に満ちた心豊かな福祉のまちづくり」を進めるため、福祉教育の一環として、町内小・中学生から作文・ポスターを募集したところ、78点の作品が寄せられ、小学校の部・中学校の部でそれぞれ入選作品が決定しました。

作文の部

小学校の部 優秀賞

「当たり前が当たり前でない人に」



白浜小学校六年

菊地 紗愛

私は、視覚障害者、つまり目が見えない方に初めて会いました。

お母さんは、介護福祉士の仕事をしています。私は、夏休みにお母さんの職場に遊びに行きました。そこで、目が見えず、棒を頼りに歩いている人を見かけました。

その棒は、「白杖」というそうです。

その姿を見て、この白杖だけで歩くことができるとか、目が見えないということはどれだけ怖いことなのか、私には全く想像することができませんでした。

その方に、どのように接していいのかわからず、遠くから見ておくことしかできませんでした。

働くスタッフの方を見てみると、お茶を出すときに、右手をテーブルに置いたお茶のところへ持つていき、

「ここに置いておきますね。」

と、お茶の場所を伝えたり、椅子に座る際に、ま

ず片手で背もたれの位置を確認してもらいその後、椅子の高さを手で確認してもらったりしていました。一番おどろいたのは、食事の時に、おかずのある位置を時計の文字ばんに沿って説明していたことです。後からスタッフの方に話を聞くと、視覚障害者の位置情報の指示方法として、それを「クロックポジション」というそうです。もし私が、おかずの位置を急に説明することになったら、きつとうまく説明することができず、困らせてしまうと思います。

私は、視覚障害者の方に話を聞きたくありません。勇気を出して声をかけてみると、その大変さを知ることができました。例えば、目が見えないと、相手の表情を見ることができないため、汗が出るほど疲れたり、においや音にとっても敏感になったりすること。また、自分の身の回りの物について、何をどこに置いたのか自分の頭の中で覚えておかなければいけないこと、さらに、他の人に動かされてしまうと、パニックになってしまうということ。私がかも、目が見えなくなってしまうたり、今の生活に戻りたいと強く思ってしまうでしょう。目から得られる情報に強く頼っているということ。目を改めて気付くことができました。そして、目が不自由な人だけではなく、耳や手足が不自由な人など、私にとっては当たり前だと思っていることが、そうではない方たちに、自分は何をしてあげられるのか、何をしたらその人の生活に少しでも役に立つことができるのかと考えるようになりました。

今回の経験を通して、自分の知識の無さや、目が見えるということ、当たり前に不自由なく生活できていることがどんなに幸せなことなのか考えることができずして。そして、障害を抱える人たちが少しでも不自由な思いをせずに生活できるように、たくさん学んだり、寄り添っていききたいと強く思います。どこかで障害のある方を見かけたら、すぐに寄り添える自分になりたいと思います。



中学校の部 最優秀賞

「高齢者の暮らしを見守る社会」

光中学校二年

古谷 龍聖

日本人の平均寿命は世界一位と言われています。恐らく今後も寿命は延びて日本は長寿社会を迎えるのではないのでしょうか。

そんな中で私が気になること、心配なこと、気が付いたことを挙げていききたいと思います。

私は生まれた時から祖父母と一緒に暮らしています。小さい頃はよく一緒に遊んでもらいました。今は随分と年をとり、体も不自由になって杖や車椅子も必要になりました。祖父は耳も速く、

会話でのやり取りがとても大変です。しかし、祖父は話すことが大好きで何度も同じことを繰り返して話し、いつも楽しそうに笑っています。私の家族のように皆で暮らしている場合は祖父母を介護したり、病院へ付き添ったりできますが、そうでない場合の高齢者はどのようにして生活をしているのだろうかという気になります。全ての人が周囲に助けられる人がいるわけではないと思います。いつも祖父母を助けている母を見ていて、助けてくれる人が傍にいない高齢者の暮らしがどのようにして支えられているのか知りたくありません。そして、その人たちが日々の暮らしの中で困っていることが沢山あるのではないかと考えるようになりました。例えば、通院や買い物など一人では難しい外出での困難、食事の支度、ゴミの仕分け、朝早い時間のゴミ出し、庭の手入れ、電球の交換、冬の灯油を入れる作業、重い物が持てず諦めてしまっている事もあるのではないのでしょうか。私も大きくなってから、よく祖父に「ちよつと手を貸してほしい」と言われることが多くなりました。その、ちよつとした手伝いをお願いできる人が傍にいないのでは日々の暮らしの負担が大きく違ってくるはず。他にも、私の家では福祉サービスの申請やいろいろな手続きを母が代わりに行っていますが、高齢者だけで暮らしていると、困っていることや、分からないこととの問い合わせができないなど難しいことが多いのではないのでしょうか。私の祖父母のように担当のケアマネージャーがいれば相談窓口になって

くれ、介護サービスの調整をしてくれそうです。そして介護認定調査を受けると、介護度に応じて車椅子や介護ベッドなどを借りることができ、高齢者が毎日を安全に暮らせるようにサポートしてくれます。しかし、介護が必要な状態であるにもかかわらず介護支援を受けることができない高齢者がどこかに存在しているのではないのでしょうか。もちろん人によっては介護されることを望まない場合もあると思います。でも、助けを求めているのに、その声が誰にも届かず苦しんでいる人がいるとしたら、とても悲しい気持ちになります。助けを必要としている全ての人が安心して暮らせる社会になったらどんなにいいかと思えます。十年後二十年後、私の両親が年老いたとき、住み慣れたこの町でどのように暮らしているのだろうかと思います。大人になった私は両親を助けてあげられているのだろうかと不安な気持ちになったりもします。そこで私は横芝光町の福祉について調べてみました。すると町では地域全体で高齢者を見守る事業、「高齢者見守りネットワーク」を実施していることを知りました。町が協力的事業者と連携を図り、高齢者に異変を感じたときすぐに町に連絡がいくようになっていそうです。協力的事業者には郵便局、宅配サービス、電気、ガス、水道、コンビニ、薬局、保険、高齢者施設、高齢者就労支援などの協力的事業者がありました。こうした事業者の方々に、高齢者と関わりのある業務の中でさりげない見守りをお願いしているそうです。このような取り組みが高齢者の暮らしを守り、緊急

時の早期発見に繋がれば素晴らしい取り組みだと思えました。いつかは私も年を取って同じ立場になります。腰が曲がって膝も痛くなるかもしれません。今は簡単に上げられる階段も辛くて苦勞すると思います。耳も遠くなつて家族に迷惑をかけているかもしれません。そう考えると、周囲に困っている人がいたら思いやりをもって行動できる人間になりたいです。私も祖父母との暮らしがなければ、このように考えることはできなかったと思います。だから考えるきっかけをくれた祖父母に感謝したいです。そして、祖父母を見て気が付いたことがありました。

高齢者はどんなに年をとっても、これまで生きてきた人生にプライドを持ち、一人ひとり考え方も違つたということです。だからわたしたちは高齢者と接する時、敬意と感謝の気持ちを持つてお手伝いしなければいけないと思いました。私たちがずっと長く生きてきて社会のために働いて、家族のために尽くしてきた方々であることを忘れてはいけないと思います。だから私はこれまで祖母からもらったたくさんのお優しい感謝し、ふたりの気持ちに寄り添いながら限られた時間を大切に過ごしていきたいと思えます。



中学校の部 優秀賞

「身近な福祉について」



光中学校三年

越川 一輝
こしかわ かずき

身近に感じた福祉について、いくつか経験したことを話したいと思えます。

一年前僕がビーアンドジューというプールに行った時は、心臓障害（心臓病）の人に話を聞きました。その方は、7歳の時から心臓病でその当時は国民学校に通っていたと聞きました。しかし、戦時下だったため、衛生環境が良くないので、心臓病がひどくて大変だったそうです。もし僕がそんな状態だったら絶望しかなかったと思います。その後、血のじむような努力をして、地域有名な進学校に入ったそうです。卒業後、自分が通った高校の教師になり、子供も2人いるなどいい生活を送っていたそうです。僕はこの話を聞いて、努力することの大切さを学びました。

そのおばさんが本当に助かったと話していたのが非常ボタンです。電車に乗っているときに心臓発作になったときに優しい人がボタンを押してくれたおかげで命が助かったと話しています。皆さんは支えあいというところのよいことを思い浮かべますか？僕は助け合いと言つと、老人や妊婦さんが重いもの

を持つているときに代わりに持つてあげるといことを思い浮かべます。これは1年ほど前、友達と遊びに行った時の話ですが、友達と歩いていたら重い荷物を持つていて困っているおばさんがいました。

この時僕と友達、困っているのは分かつていても助けられないでいると、若い二十歳ぐらいの人が助けましょうかと言っていました。その人は荷物を軽々と持ち上げ目的の地まで運んで、どうぞと言っていました。僕は、おばさんを助けられなかった方がいいなと、すぐにおばさんを助けていた若い人のようにすぐに助けましょうかと率先して言える人になりたいと心から強く思いました。家に帰ってから、おばさんに手を差し伸べられなかった自分の姿が頭に浮かんで眠れなかつたりしました。

僕の家には、七十五歳のおばあさんがいますが、畑仕事をしている祖母はいつも重いバケツに収穫物を入れて運んでいました。たまたま作業を見る機会があるときは、前に助けられなかった思い出があるため、収穫物を運搬するのを協力しました。また、ある時は重い物袋を持つのを手伝つたのこともありました。その時に「ありがとう」と言葉をかけてもらったのが自分には嬉しく小さいことは福祉とは言えないかもしれませんが、こつこつこの積み重ねが福祉になるのだろつなと思えました。

僕の親戚のおじさんがいますが、その人は、車いすに乗っているのですが、その人に親戚の会合で会つたときに、車いすを押すなどをして手伝いました。その車いすについてどの役に立っているか調べましたが、車いすは、ちょっとした段差が苦

手で、障害物があると前に進めなかつたりするなど不便が多いように感じました。そのおじさんがとても役に立っていると言っているのがバリアフリーです。バリアフリーの例を挙げると、一つ目はスロープです。スロープとは、階段や段差を上り下りするために設置されている段差のことで、すべての人に利用しやすいように、基準が定められています。スロープだとイメージはしやすいと思うのですが、実は身近だけど気づかないものがありました。それは、音響式信号機のことです。よく耳にする「ピュピュ」や「カッコー」という音です。

このようにバリアフリーは、僕たちの気づかない場所で身近だと思えるものが実はバリアフリーということがあります。このように、日本は、バリアフリー技術の発展によって、障がい者でも公共機関を安全に利用できるようになっていきます。しかし、バリアフリーと言っても、心のバリアフリーというものがあることが分かりました。これは、高齢者に席を譲る、重いものを代わりに持つというのもバリアフリーの一部になるのが分かりました。日本は少子高齢化で老人の数が多すぎます。バリアフリーの技術はこれから高まると思いますが、これからは、心の助け合いがさらに多くなる社会になればいいなと思いました。



中学校の部 優秀賞



横芝中学校三年
まつむら かほ
松村 花穂

中学校の部 優秀賞



横芝中学校二年
しおもり にこ
塩盛 虹心

ポスターの部

小学校の部 優秀賞



白浜小学校六年
ひらやま ここね
平山 心響



小学校の部 優秀賞



白浜小学校二年
すこう こはる
菅生 虹遥

恒久平和を願い合掌

戦没者追悼式

戦後78年を迎え、戦没者追悼式が11月30日文化会館で遺族ほか関係者70人が参列して行われました。

会場に「海ゆかば」が流れる中、一本ずつ菊を霊前に献花、在りし日の英霊の姿をしのびいつまでも合掌するご遺族の姿がありました。



生き生きクラブ

第47回 千葉県シニア囲碁将棋大会に出場しました

8月に行われた山武地区高齢者囲碁将棋大会で優秀な成績を収めた橋場長寿会 布施精一さんが、12月11日にホテルポートプラザちばで行われた第47回千葉県シニア囲碁将棋大会に出場しました。



橋場長寿会 布施 精一 さん

第35回 チャリティー野球大会

後援：横芝光町社会福祉協議会

ツインターボが優勝!



令和5年11月12日～12月3日に第35回チャリティー野球大会が、町内外から19チームが参加し開催されました。

決勝戦は、ツインターボと黒潮スタジアムが対戦し、5対3でツインターボが優勝しました。



地域のふれあい活動

各地区社協主催の敬老事業が開催されました。それぞれが趣向を凝らした「おもてなし」で、お祝いしました。

【東陽地区社協】



匠箏会による琴演奏



伊達悠太歌謡ショー

【南条地区社協】



小川台サロン有志による竹太鼓の演奏



南条忠夫歌謡ショー & もぐもぐピーナツコント

【日吉地区社協】



日吉地区女性部によるスコップ三味線



浪花のおしゃべりおばさんエリザベス



フラダンス コーネリヤ



【上埜地区社協】



【大総地区社協】



キッズダンス PASSION

令和5年度 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金実績報告 (R5.11.30 現在)

【赤い羽根募金】



合計額 3,201,943 円
 戸別 2,641,000 円 事業所 338,000 円
 学校 106,498 円 職域 115,107 円
 個人 1,338 円

◆事業所

(敬称略・順不同)

(有) バーネットビレッジ	(弁) 九十九里	丸源起業(株)	(有) 光住販
(株) 青柳建設	(有) ユート・アメニティ	(有) 斉藤自動車整備工場	(株) 畔蒜工務店
畔蒜総業(株)	(有) グリーンファーム九十九里	四川食品工業(株)	(株) 平和堂薬局
西村歯科医院	(有) 平山工務店	(有) 秋山架設	(有) ハヤカワ商工
(株) 越川スレート	(株) 五十嵐商会	(有) 大新工業	ハリカ横芝光
(有) 越川鋼業物産	(株) 太智建設	ゼンミ食品(株)	(株) 林建材
(株) 三光自動車	(株) 畔蒜不動産	(株) 椎名畜産	青雲閣
(有) サンアート	(株) ウザワ商店	(有) 須藤工業所	(有) 鈴木建業
青柳酒造(株)	炭火焼肉 樹苑	(有) 石川石油	山崎電気工業
松原荘	(有) 早川組	(株) 合同資源	(株) 海成
(株) 放電精密加工研究所	(株) 横芝緑化	馬狩建設(株)	



【歳末たすけあい募金】

合計額 1,854,122 円
 戸別 1,596,900 円 事業所 184,000 円
 職域 72,922 円 個人 300 円

◆事業所

(敬称略・順不同)

(有) バーネットビレッジ	丸源起業(株)	(株) 青柳建設	(有) ユート・アメニティ
(有) グリーンファーム九十九里	四川食品工業(株)	西村歯科医院	(有) 平山工務店
(有) 秋山架設	(有) ハヤカワ商工	(株) 五十嵐商会	大新工業(有)
ハリカ横芝光	(有) 越川鋼業物産	(株) 太智建設	(株) 林建材
ゼンミ食品(株)	(株) 三光自動車	(株) 畔蒜不動産	(株) 椎名畜産
青雲閣	(株) ウザワ商店	(有) 須藤工業所	(有) 石川石油
松原荘	(有) 早川組	(株) 放電精密加工研究所	(株) 横芝緑化
山崎電気工業			



これらの募金は、こども・高齢者・障がい者のために使わせていただきます。

ご協力ありがとうございました



令和5年11月13日(月)～12月22日(水)まで行ったフードドライブ(食品の回収)に多くの方からご協力をいただきました。いただいた食品は、実施主体であるフードドライブさんぶに届けるとともに町民の皆様のために活用させていただきます。

ご寄付ありがとうございました

社会福祉協議会へ、次の方々からご寄付をいただきました。

- 10月23日 (株) L'aube
- 11月6日 (株) ダイナム
- 11月20日 横芝光町婦人会
- 12月4日 銚子商工信用組合 信友会
- 12月4日 横芝歌謡友の会
- 12月6日 チャリティー野球実行委員会
- 12月14日 横芝光町商工会女性部